

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年5月26日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0173600867		
法人名	有限会社 ライトマインド		
事業所名	グループホーム 花縁		
所在地	苫小牧市澄川町4丁目3番5号 (電話) 0144-61-7321		
評価機関名	北海道社会福祉協議会 介護情報調査室		
所在地	札幌市中央区北2条7丁目1番地 北海道社会福祉総合センター		
訪問調査日	平成19年5月25日	評価確定日	平成19年7月5日

## 【情報提供票より】(平成19年5月7日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 10月 21日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	15 人 常勤14人, 非常勤1人, 常勤換算14.4人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1~2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,000 円	その他の経費(月額)	16,500~23,500 円	
敷金	有(43,000円)	無(退去時に返却)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有( ) 円	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	食事代に込み 円
	または1日当たり	1,050 円		

### (4) 利用者の概要(5月7日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	0	要介護2	4		
要介護3	5	要介護4	5		
要介護5	4	要支援2			
年齢	平均 84.7歳	最低	77歳	最高	96歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	苫小牧澄川病院・杉村歯科医院・光洋クリニック
---------	------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、全体に一体感があり開放的である。利用者に羞恥心や不安感を与えることのないような構造上の工夫がなされ、精神的な安らぎと生活感・季節感が実感できる作りになっている。2人の管理者は共に看護師で、利用者に対する適切な健康管理の下で、理念を共有する職員チームにより利用者一人ひとりの尊厳と自立を重視した介護サービスの提供が行われているとともに、利用者は区切られることのない時間を自己のペースでゆったりと豊かな表情で過ごしている。一日の生活がゆっくりと静かに流れている事業所である。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は評価のねらいや方法について一定の指導を行っている。職員の経験・力量などに差がある中で、事業所の質の向上・改善に努めている。今後、改善計画シートを作り計画的・継続的な取り組みを期待する。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	平成19年3月に第一回の運営推進会議が開催された。しかし、事業所と地域の現状に即した相互の理解が十分とは言えず、相互理解を基盤にした双方向的な会議の開催の取り組みに期待する。市町村の担当窓口とは折に触れ交流がもたれている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族には利用者のホームの暮らしづくりのほか、心身の様子や金銭の出納・介護・医療の状況などについて、都度・定期的に報告している。事業所の運営に関する家族の意見は、質の向上・改善への重要な検討の機会とするとともに、外部者へ表せる場面づくりへの取り組みを期待する。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所は地域に受け入れられ、利用者が地域で暮らし続ける基盤が出来ている。地域と事業所が双方向的に必要な活動・役割を担い、今後、地域で共に生きる住民の一員としての取り組みを期待する。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成17年の開設時に掲げられた理念を基に、日々業務の中で具現化・実践化の取り組みを行っている。		今後も地域密着型サービスの充実を目指し、利用者の地域生活を支える事業所としての取り組みを期待する。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者の指導の下で、全職員は理念を理解し共有を図り、尊厳と自立を基本にした介護サービスの提供が行われている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会のお祭りに参加したり、諸施設の利用を通じた住民との触れ合いがある。しかし、地域住民との親密な交流が行われるまでには至っていない。		事業所と地域の人達が共に暮らし支え合う関係づくりを目指し、積極的な地域活動を通じた日常的で豊かな交流を期待する。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価のねらいや方法について一定の指導を行い評価結果を質の向上・改善に効果的に活かしている。しかし、職員の経験・力量による評価の意義への理解度に差があり、改善計画シートがないため評価を基にした改善経過が明らかではない。		評価結果で明らかになった課題は、改善計画シートを基に計画を立て、継続的な取り組みを期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年3月に第1回の運営推進会議が開催され、その中で、事業所の生活の概要・認知症・事業所の設置要綱などについて説明がなされるとともに、ビデオを通し事業所での生活の一部の報告が行われている。		今後、地域と事業所の相互理解を基盤にした会議を開催する取り組みが望まれる。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の代表者は市町村担当者を折に触れ訪問し交流を持っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所便りの「すずらん通信」や金銭出納状況を毎月家族に送付し、ホームの様子を伝えている。また、利用者の事業所での暮らし・介護・医療の様子は、来訪時や電話などで都度・定期的に連絡し、相談も行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン作成時に説明し意見・要望を聞いている。また、苦情受付窓口については重要事項説明書に担当者と外部機関を載せている。		外部機関として運営推進会議を軌道に乗せ検討を行い、合わせて家族会を組織化して対応するなど、意見・苦情を質向上・改善の重要な機会として積極的に受け止め、運営に反映することが望まれる。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所開設以来、1年半の間に、多数の職員の離職で、利用者へのダメージや事業所の運営に支障をきたすことがあった。事業所ではその経験を教訓にし、最善の努力を行っている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	北海道グループホーム協議会や苫小牧グループホーム連絡会を始め各種団体が主催する研修会に職員のレベルに合わせて積極的に参加しているとともに、研修後は伝達研修会を開き内容の共有を図っている。また、月1回の内部研修会を開くなど、学びの機会を計画的に確保している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	苫小牧グループホーム連絡会の研修・交流会には積極的に参加している。また、施設長は同連絡会の役員として、市内各グループホームの質的向上や職員育成に役立つ実践的活動に努めている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者はいずれも入院・入所先から直接入居している。しかし、入居希望者・家族には、訪問面接や見学・相談をしながら対応している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常に利用者を見守りつつ業務に専念し、利用者は会話や役割を楽しみながらお互いに目を合わせては微笑み声掛けを行うなど、共に暮らす同士として和やかに生活している。職員は利用者から人生の先輩としての考えを学び共有している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>アセスメントシートに、一人ひとりの生活歴を中心にした思いや願いを記録している。また、日常生活の言動に注意し新たな発見に努め、カンファレンスで共有している。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントを基にカンファレンスを行いケアプランを作成するとともに、その後は月2回のケアカンファレンスとモニタリングを繰り返し、気づき・意見などを反映した利用者本位の介護計画を作成している。今後、カンファレンスの際に家族の同席を検討している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者の状態変化と職員の新たな気づきや家族・利用者の意見を踏まえ、月2回のカンファレンスと共に毎月モニタリングを行い、話し合いに基づく臨機応変な介護計画の見直しを行っている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者・家族の状況に即して、外出・外泊・家族の宿泊・来訪時の食事など、多機能性を活かした事業所独自のサービスにより支援を行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は、協力医療機関により受診や訪問診療を受けているとともに、事業所入居前からのかかりつけ医へは、家族と協力し通院介助を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に向けた対応指針を定め、家族・医師・看護師を交え話し合っている。重度化している利用者の家族とは、必要に応じた話し合いを行っている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する言葉掛けや対応だけではなく、記録においても徹底している。また、個人情報の取り扱いに関して常に職員に指導し、プライバシー保護の徹底を図っているとともに、事業所便りの「すずらん通信」は家族に同意を得て地域に配布している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所としての1日の基本的な流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。また、食事・入浴などの時間については利用者の希望を大切にして支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望を取り入れるとともに、調理・配膳・下膳・食器拭きなどは利用者一人ひとりの力を活かしながら職員と一緒にっており、また、職員は利用者と共に食事を摂っている。今後、買い物を始め利用者が参加できる場面づくりの幅を広げること検討中である。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の習慣や希望に合わせて、曜日・時間・回数などの取り決めをせず、自由に入浴が出来るように配慮されているとともに、入浴日を記録し満遍なく入浴できるように支援している。また、脱衣所は利用者の不安感や羞恥心を招かぬように、職員の用途が多い洗濯機や物品庫などを置いていない。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントから割り出した習慣・希望・力を踏まえて、役割や楽しみごとをケアプランに反映し支援している。また、日常生活の言動の中から汲み取るように努め、カンファレンスで共有している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を優先しその都度外出している。また、外出頻度の少ない利用者には声掛けし戸外に出る機会を多くするよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は鍵をかけていない。安全確保のため玄関に鈴をかけ利用者の出入りを察知するようさり気なく配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所内に自衛防災体制がつけられ、運営規定により消防署の指導を得て避難訓練を行っているとともに、運営推進委員会で町内会に災害時の応援を要請中である。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	事業所の取締役が調理師であり、常に美味しい物・馴染みの物の提供に努めている。また、一日を通じた食事量・飲水量・栄養バランスなどを確認している。カロリー計算は正確には行っていないが、今後、取り組みを検討中である。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は一体感があるとともに、置き物・飾り付けなどで生活感や季節感を採り入れ、居心地の良さに配慮されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が使い慣れた馴染みの家具や日用品が持参され、安心してその人らしく過ごせる部屋になっている。		

 は、重点項目。